カルメル
霊性センターニュース

宇治カルメル会 聖母子像

2017 年 12 月　　337 号

『霊性センターニュース』
来年度の郵送お申込みのご案内

愛読者の皆様

『カルメル霊性センターニュース』事務局は、本年７月より、上野毛修道院から宇治修道院に移転いたしました。

このため、振替口座を宇治の方に新たに開設いたしました。来年度（2018年１月~12月、８月休刊のため11冊）の『霊性センターニュース』の郵送をご希望される方は、以下の振替口座に2,750円程度の献金（郵送料込みで１冊250円の献金とすれば、11冊で2,750円程度の献金）をお振込みいただければ、幸いです。

郵便番号口座：　００９１０－６－３３３１８
加入者名：　カルメル霊性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、混乱を避けるため、年間の「郵送申込」か純然たる「霊性センターへの献金」かを明記してください。また氏名、郵便番号・住所、電話等もお忘れなく。お問い合わせは、事務局の方へ電話かファックスかe-mailで、お願いいたします。

また、既にお申込み頂いている方、ご献金頂いた方へ重複したお知らせとなります事、お詫び致します。

〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山39-12
カルメル会宇治修道院　「霊性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457
≪変更しました≫ reisei@carmel-monastery.jp

『カルメル霊性センターニュース』編集長
九里　彰神父

目次

来年度の郵送お申込みのご案内・・・・・・・・・・1

目次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

心の泉・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・3

カルメル会の企画案内・・・・・・・・・・・・・・２３

東京・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２４

北陸・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２７

京都・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２８

諸所の企画案内・・・・・・・・・・・・・・・・・３３

郵送お申込みのご案内・・・・・・・・・・・・・・４４

編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４５

心の泉

宇治修道院 石段

第三巻

第七章　謙遜をもって神の恵みにつつまれる

４　光が奪われる時

心が平和な時に安心しすぎる者は、闘いの時になると勇気を失い、恐れおののく。あなたがつねに謙遜と小ささとを心にとどめ、自分の心をよく制御し導くなら、危険と罪に陥ることはない。霊的な熱意に恵まれる時に、神の光が奪われれば自分はどうなるだろうと考えるのは、聡明なふるまいである。神の光が奪われることがあるなら、それはある期間、あなたの教えとなり、私の栄光となるために神がそうなさったもので、近いうちにまた戻るものだと思いなさい。

５　慰めより徳のほうが大切

すべてがあなたの思いのままに順調にゆくよりも、試練のあるほうがあなたのためになる。人間の功徳は、どれほどの幻視を見たか、どれほどの慰めを得たか、どれほど聖書に通じているか、どれほどの地位にあるかではなく、むしろどれほど謙遜に根を張っているか、神への愛をもっているか、清い意向をもって神の光栄のために働いているか、自分を空しい者と考え、心から自分を軽蔑し、尊ばれるよりも軽んじられ、卑しめられることを望むかにある。≫

主よ　来てください　！　　２０１７－１２月

典礼歴の一年のはじめが巡ってきました。年の初めにあたり教会はわたしたちの人生の真の最終目的地を忘れないように「目を覚ましていなさい」と告げます。
とかく日々の出来事のなかで、目指す方向を見失いがちなわたしたちです。日々、「主よ、来てください」と人となられた神の子イエスを待ち望みたいものです。

マリアよ、
　あなたは、わたしたちの唯一の希望
　　生きるすべてが失われた時も
　あなたとともに　信仰、希望、愛を
　　生きることを教えてください。
　あなたの心を通って、
　　わたしたちを　イエスの心へと
　　導いてください。
　あなたのイエスへの愛を
　　わたしたちにも与えてください。

とうとう生まれる時が　やってきた・・・
　　かいばおけに置かれた神は

そこで　涙を流して　ないていた・・・
　　人間の涙は　神のものとなり
　よろこびは　人のものとなった・・・
それとこれとは　常に　縁のないものだったのに。
　　～十字架の聖ヨハネの詩より～

よいご降誕の祝日をお迎えください！

伊従　信子（いより　のぶこ）
ノートルダム・ド・ヴィ

創造主への賛美（4）

九里（くのり）　彰

フランシスコ教皇は、2015 年に出された社会教説、回勅『ラウダ―ト・シ』（おお　たたえられよ）の中で、自然は神を啓示する一つの本であると言っている。この捉え方は、すでに見てきた詩編の中に垣間見られるように、ユダヤ・キリスト教の長い伝統の中で育まれてきたものであろう。

実際、この回勅のタイトルそのものが、アシジの聖フランシスコの「太陽の歌」から取られている。

おお　たたえられよ　わが主
すべての　被造物によって
わけても　兄弟なる太陽によって
……
おお　たたえられよ　わが主
姉妹なる月と　無数の星とによって
……
おお　たたえられよ
兄弟なる風と
澄んだ空気と
雲と晴れた空と
あらゆる天候とによって
……

いずれにせよ、教皇はご自分の名前として選んだこの聖人について、「傷つきやすいものへの気遣いの最良の手本であり、喜びと真心をもって生きた、総合的なエコロジーの最高の模範である」(10)とし、聖フランシスコに関する聖ヴェントゥラの次の言葉を引用している。

すべてのものの根元的な源に思いをはせる時、彼はあふれるような敬虔さに満たされて、どんな小さなものでも、あらゆる被造物を自分の兄弟・姉妹と呼んだ。(11)
さらに、(彼は)、自然を、神がそこで私たちに語りかけ、ご自身の無限の美や善を垣間見させてくれる、壮麗な一冊の本とみなすように誘います。(12)

十字架の聖ヨハネ　こぼれ話（119）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

「もっと多くの杖と魔女たち」

とてもぞっとするような出来事。でもこれも、こぼれ話の一つとして保存されてしかるべきでしょう。

ベアスのカルメル会修道女たちは、修道院でひとりの召使いを雇っていました。彼は畑仕事や使い走り等、さまざまな仕事をしていました。ある時、彼はグラナダへ旅をしました。友達やベアスや他の町の知人と一緒に、ある夜、町を通って出てゆきました。ぼんやりとそれほど遠くないところに光が見え始めました。彼らが近づいていくと、「裸の女が見えました。ランタンを手に、梯子に登って、首つりした人間から歯を抜き取っていました。みなしっかりした男たちだったのですが、恐怖に襲われました。修道院で働いていた者がもっとも勇気があり、その女に降りるよう命じました。彼らは彼女をマントで覆いました。彼女は彼らにそれをはぎとらないよう頼んだので、彼らはそれを約束し、彼女を連れてゆきました。何日か後、大勢の仲間と着飾った彼女に出会いました。彼女は、はしごから降りるようにという仕草をし、彼に仕返しすると脅しました」。強欲女ののろいは実行されます。

召使いはベアスにもどりました。彼が眠り込んでいた最初の夜、歯の泥棒（くだんの女）は、他の仲間の女たちと部屋に現れ、ベッドから彼を引きずり出し、「屋根の梁まで彼を運び上げ、何度も彼を突き落とし、彼をぐったりとさせました。彼は動くことも、宿泊している家の他の人々に助けを求めることもできませんでした」。

鬼婆というか鬼女たちが部屋をはずしたすきを利用して、哀れな召使いは、なんとか服を着、半ば強引に、その家から飛び出しました。事の次第を続けて、くわしく語りましょう。

「彼が外に出た後、魔女たちがもどってきて、彼をつかまえるや、彼をペロタ（ボール）のように扱い、彼の全身をぐったりとさせ、修道院の近くに来るまで、放しませんでした。彼はそこで、何とか正気にもどることができました。

夜が明けると、彼女たちは、修道院に入る許可を得ていないと言いながら、立ち去りました。彼は、修道院の入り口が開くまで待ちました。　　（続く）

待降節 第１主日（A）（マルコ　１３：３３－３７）

待降節は、キリストの到来への希望を新たにする季節です。ベトレヘムで最初にイエスがおいでになるのを待った時期のことを思いめぐらすとき、そして今クリスマスにイエスがおいでになるのを準備し始めるとき、私たちは自分の生活の中にイエスが来られるのを待つのです。言いかえれば、私たちはイエスが歴史の中に、神秘の中に、そして栄光のうちに来られるのをお祝いします。主はすでにおいでになっていると教会は教えています。マリアから生まれた子どもとしてイエスがすでに来ていることを知り、確信しています。クリスマスのため物質的な準備をする中で、待降節という季節を通して、私たちはキリストの到来を精神的に準備し始めます。

福音書の中のイエスは、まさに今ここで話されているのです。近い未来に起こる直接の出来事に焦点を当てるようにイエスは弟子たちを招きます。イエスは、主人が留守の間忠実に行動する誠実な信頼できる召使いを例に話しています。召使いたちは責任感があり、何をしたらよいか考えています。主人がいてもいなくても、誠実であれば、与えられた仕事を全ておこないます。主人が突然戻ってきたとき、誠実な召使いたちは何をしたらよいか考えていたので、すぐに役立ちます。彼らは勤勉に、忠実に自分の仕事をしました。各瞬間が永遠の重要性を持っています、ですから弟子は警戒しているべきなのです。漫然と主人が旅から戻ってくると考えている召使いは、知恵が足りないと思われるかもしれません。イエスがここで言っていることは明確で単純です。毎日主人が旅から戻ってくる日のように生きなさいということです。これは心配したり不安になったりすることではなく、主人が戻ってきたときにはいつでも準備ができているという落ち着いた確信です。これがまさに待降節のメッセージなのです。

イエスは、気をつけなさい、不注意であってはなりません、と忠告しています。これはイエスのはっきりした明確な忠告で、道しるべです。イエスの言葉を聞くキリスト者は、イエスの到来をいつも変わらぬ待望のうちに生きて、長らく待ち望んでいた旅から戻ってきた主人としてイエスを迎え入れます。気をつけるとは、祈りと黙想を通して、救いの「今日」はまさに今ここであると毎日知ることです。本日示される最後の呼びかけであるかのように、常に神との友情の恵みのうちに生きることです。ちょうど預言者イザヤが約束したように、キリスト者として新しい希望、新しい光を持つことです。イエスを待ち望むことは喜びと期待の瞬間であり、困難であふれている緊張の状態ではありません。ですから、待降節の季節には私たちは信仰によって生き、希望のうちに歩み、愛のうちに新たにされます。このようにして、最後のときにイエスが審判者として来られるとき、私たちはイエスをただ知っているだけでなく、友としてイエスのところに来るのです。　*(Sr. Paulina)*

待降節第２主日　「聖霊による洗礼」

「その方は聖霊で洗礼をお授けになる。」洗礼者ヨハネは、ここに自分の授ける洗礼とイエスの洗礼との決定的な違いを見ていました。「聖霊による洗礼」。それはどんなものなのでしょうか。

マタイとルカの福音書では「その方は聖霊と火であなたたちに洗礼をお授けになる」とヨハネは言っています。聖霊は火のように熱を帯びたものとイメージできます。後にイエスも言っています。「わたしは地上に火を投じるために来た。その火が燃えていたらとどんなに願っていることか」（ルカ 12・49）。まさにイエスは、地上を火で燃やすために来たと自覚しています。それは、イエスの心に燃えていた炎を、地上の多くの人の心にも燃やすという意味だと思います。

洗礼者ヨハネの洗礼は「悔い改め」、「罪からの回心」に導くものです。それは、それとしてとても大切なことですが、イエスの洗礼はもっと先を行くということです。ただ「清められてよかったね」、「さっぱりしたね」で終わるのではなく、イエスと同じ心、イエスと同じ愛に燃えて生きるための熱を心にもたらすのが「聖霊による洗礼」なのです。

イエスが父を愛したように父を愛し、神と親子の信頼関係を生きさせてくれる洗礼。また、イエスのように貧しい人や病気の人、子供、罪人を愛する心を与えてくれる洗礼。イエスのように不正に立ち向かい、偽善的な生活を退けて、神の心を心として生きさせてくれる洗礼。イエスの上に天が開かれ、霊が鳩のように降り、「あなたはわたしの愛する子」（マルコ 1・11）と父の声を聞いたように、私たちの上にも天が開かれ、霊に包まれ、父の愛の声を聞いて生きる新しい生活へと参入させてくださるのが、聖霊による洗礼なのです。

ヨハネが宣べ伝えた「悔い改め」は、その洗礼に潤されるための準備です。「主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ。」これがヨハネの役割です。私たちがイエスと同じ霊に包まれ「主の道」を歩むために、彼は回心を呼びかけています。

マリア様も「聖霊があなたに降り、いと高き方の力があなたを覆う」（ルカ 1・35）と言われ、それに同意することで神の子を宿し、イエスに従う生活が始まりました。私たちも、ヨハネから同じ預言の言葉を聞いたのです。「その方は聖霊で洗礼をお授けになる」＝「あなたは聖霊によって洗礼を授けられる」＝「聖霊が降り、いと高き方の力があなたを覆う」。これに準備し、同意することをヨハネは強く勧めています。マリアのように心清くし、謙ることを勧めています。

今泉神父

待降節 第３主日　（ヨハネ１：6—８、19—28）

待降節第３主日は Gaudete（よろこび）の主日と言われ、キリストに従う全ての者を常に主にあって喜ぶよう招いています。これは第２朗読の聖パウロの１テサロニケの教会への手紙の中の、主は近くにおられるからいつも喜んでなさいとの勧めです。今日の典礼は、この喜びのうちに、救いとより正しく人間味ある世界が互いに関連していることを示しています。救いをもたらすのは人間的な幸福や満足、社会正義の追求ではなく、むしろもっと高い次元からのもので、わたしたちがよりよい世界をもたらすための道具となり、皆が仲間となる世界の実現を真の喜びとさせるものです。第１朗読で預言者イザヤは、神の霊を授けられた特別の僕が貧しい人に良い知らせを伝え、打ち砕かれた心を包み、全ての人に自由をもたらすと告げています。神において喜びなさいと言っている聖パウロもキリスト者としての使命を大切にするよう勇気づけています。聖パウロの説いている喜びは聖霊の賜物で、これを祈り願わなければなりません。福音の中で出会う洗礼者ヨハネはイエスの証人としての使命を明らかにし、ヨハネ自身はメシアではなく、後に来られるメシアの履物の紐を解く資格もないことを宣言しています。

神のみことばは、神が洗礼者ヨハネを光の到来を告げる証人として遣わされたことを教えています。光、イエスキリストの内に見出される真の光をヨハネは証しする使命を持っていました。ヨハネ自身は光ではなく、光の証人であることを強調し、彼は荒れ野で叫ぶ声であって、彼のところに来た全ての人に主の訪れの準備をさせる者であることを証ししました。水で悔い改めの洗礼を授け、神の慈しみの時が訪れようとしていることを宣言しました。洗礼者ヨハネはメシアでも預言者でもないと断言し、自分は後から来られる方、王のなかの王、真の神の現存である方が、あまりにも偉大で、この方の履物のひもを解くという奴隷のような仕事をする値打ちさえないと感じていました。これはイエスのご誕生を待つ待降節の間しっかり心に留めるべき霊的な態度です。

クリスマス！わたしたち一人ひとりを個別に訪れようとしてくださっている主、神の独り子のご誕生を心楽しく幸せな思いで準備しましょう！その方はもう既にわたしたちの内に居られますが、再び訪れてくださることも事実です。イエスの喜び、クリスマスの喜びは、わたしたちがイエスと共に働いて他の人々の生活にも同じ喜びをもたらすことが出来たとき本当の自分のものに成り得るのです。イエスが特別にわたしたちと出会いたいと待っておられるのは、喜びの祝宴である聖体祭儀においてです。また、貧しい人々のうちに、長い間の身体的、精神的な苦しみの虜になっている人々のうちにイエスはいらっしゃいます。このクリスマス、本当の喜びを他者に運ぶことができたとき、その喜びは自分自身のためであったと気付くでしょう。(Sr. Paulina)

待降節第４主日

（ルカ1：26－38）

主の降誕がもう間もなくとなりました。今宵、世界中でクリスマスをお祝いします。日中、主日のミサのため教会に行き、夜にはクリスマスの夜半のミサで教会に行って…不思議な思いがする方も多いのではないでしょうか。そしてB年の今日の福音の箇所は、１２月２０日（水）の箇所と同じ個所になりますので、あらためてその内容の大切さ、重要さが感じられる様に思います。

天使がマリアに現れ、イエスの誕生が告知され、その子はいと高き方の子と言われ、ヤコブの家を永遠に治めることがマリアに告げられます。そのことに対してマリアは、どうして？処女なのにと問いを発するのですが、神の力である聖霊の働きによること、親戚のエリザベットは高齢なのに子を宿し、神にできないことは何一つないとの天使の言葉を聞き「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身になりますように。」とお答えになられて受胎告知を受諾され、天使は去っていったのが今日のあらすじですね。

マリア様は神からの啓示にかかわらず、疑問に感じたことを率直に質問されました。しかし最終的に、その告知をいさぎよくお受けになられました。自分には計り知れないことではあるけれども、全能の神に全てを委ねて、神を信じて、歩み出されたのです。ここにマリア様の偉大さがあります。私たちも聖母の「み跡」を慕って歩みましょう。

このマリア様の神様のご計画に対する「はい」が、罪の闇に沈んでいた私たち人類の歴史が大きく変えられました。このことによって私たちに救いがもたらされたのです。目に見えない神が、目に見える形で、人となられて私たちのところに来られるのです。お告げの祈りで、「みことばは人となり、私たちのうちに住まわれた。」と唱える様に、私たちの世界に来られ、ともに生き、ともに歩んで下さるのです。今、この時も…。

今は主のご降誕前。マリア様のうちに宿られた神のみことばを思い巡らしましょう。マリア様の胎におられる神の子、まことの神を思い巡らしましょう。この方がもうすぐお生まれになるのです。「主はあなたと共におられる」。目に見えないお方が見える形でお現われになられるのです。全世界の人々が、喜びのうちに、主の降誕を迎えることができますように。そして神からの恵みが豊かにあります様に。

（Fr.　古川利雅）

聖家族　(B)　　（ルカ２：22―40）

今日わたしたちは幼子イエスとその両親マリアとヨセフの聖家族を祝います。この祝日はイエスのご降誕に自ずと繋がっていく祝日です。この日の聖書朗読はどれも聖家族一人ひとりの姿に深く関わっています。それは家庭生活を神の思いを中心に、相手を大切に重んじながら信仰のうちに生きる姿です。

旧約聖書の創世記には、神がご自分に似せてまたご自分に象って人を創造され、家族を創られたと書かれています。家族の本質を理解するためには、家族である三位一体の神の生活、その営みを黙想することも必要です。神は人間との関わりをもう一度家族の絆である契約（神とイスラエル民族との契約）の言葉のうちに表しておられます。神の御子、イエス　キリストは人となって世に入り、家族の一員となって生まれました。それは神が約束されたように、人類を罪から救い、神の子の身分にしてくださるためでした。イエスは両親と共にナザレトに住み信仰に生きる家族の模範を示しました。

今日教会が家庭生活の模範として見せている聖家族の一人ひとりを見つめてみましょう。聖ヨゼフは全き信頼を神に置いて行動しています。自分を顧みない無私の愛情を御子イエスとマリアに向けながら家族の長としての責任を果し、二人を助け保護しています。聖書には聖ヨゼフの言葉は一つも見当たりませんが、神と聖家族に捧げ尽くした聖ヨゼフについて著されているものは数限りなくあります。母マリアも深い信仰のうちに生活し、いつもどんな時にも神の大きな愛に信頼していました。妻としてマリアは常に神の望み、神の命令に忠実に従う夫ヨゼフを助けていました。母として、イエスを豊かな愛情で包み育てました。こうしてマリアとヨゼフは共に協力し合いイエスが神のご計画のうちに、知恵に満ちたくましく成長して行く温かな家庭を築きました。イエスは母マリアと父ヨゼフに全く従順で、両親をこの上なく愛しておられました。また天の御父と全人類への完全な愛のために、御父の懇願に近い命令、十字架上の死を受け入れていました。この他者に対する犠牲的な愛は聖家族の意味深い重要な特質です。これは家族の皆が神への思い、神の望みを何よりも大切にして生きることを可能にする真の愛です。

聖家族の祝日はキリスト者の全家庭が聖家族を見習うためのものです。家庭生活の目標をキリストに置き、その望みに従って生きることを旨とするとき、その家庭は聖なるものとなり家庭教会が誕生します。聖ヨハネ　クリゾストモは全てのキリスト者の家庭を家庭教会にして聖化するよう勧めています。聖パウロはコロサイへの手紙で、憐れみ（愛）、親切、忍耐をもって互いに支え合い、神である主キリストに倣い赦し合うよう勧めています。このうち最も重要な徳は愛であり、愛は完全な調和のうちに全てを結び一致させるものであると言っています。このときキリストの平和が全キリスト者の心に宿り、大勢であっても一つの体のうちに在るもの、生きるものと言われています。

(Sr. Paulina)

糸巻き棒からペンへ(26)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス　OCD

第一は創世記です。そこでは、女性が、原罪の時、悪魔にだまされたとあります。第二に、聖パウロが女性たちに、夫に従うように、また教会では黙っているように願っています。最後に、聖トマスが、アリストテレスに従い、女性を不完全な男性と見なしています。これらすべてをテレジアは知っていました。そしてこのような状態に対して、起こりうる危険を十分に意識ながらも、反旗を翻したのです。それゆえ、彼女は、著作の中で、見せかけの従順*をもって、これらのテーマを取り上げているのです。

*　原文は、”con aparente sumisión”　「明白な」ではおかしい。

「ひげの生えた」女性

聖テレジアの何人かの同時代人が、彼女を称賛する時、「女のようではない」とか「男まさりの勇気を持っている」とか言っていることは、意味のないことではありません。彼女自身もこれを受け入れ、彼女が一般の女性たちよりずっと大きな勇気を持っていると言っている人々の考えも知っていました（『自叙伝』8,7 参照）。ドミニコ会の管区長であるホアン・デ・サリーナス神父のことも例として挙げることができるでしょう。彼は、ドミンゴ・バニェス神父がテレジアの友であると聞いたので、女性に過度の信頼を置かないよう、「その諸徳は、常に疑わしいものと見なさなければならない」と彼に注意を促しました。バニェス神父は、四旬節にはトレドに説教に行かねばならず、聖女もそこにいるので、管区長が個人的に彼女と知り合い、彼女に対する彼の敬意を理解されるようにと願いました。トレドからもどる時、サリーナス神父は、バニェス神父を非難しました。「あなたは私をだました。彼女は女だと私に言いましたが、間違いなく彼女は男、それも非常にひげの濃い男です！」。

その時代の反フェミニズム的偏見にもかかわらず、テレジアの生涯と著作は、自分自身で考え、決断していく女性の権利を徹頭徹尾、擁護するものでした。修道女たちの日々の生活にだれも干渉することを望みませんでした。彼女たちが自主的に運営できるために、聴罪司祭や顧問を選ぶ自由を得、まったく男たちに従属しないようにするために、大変な努力を払わねばなりませんでした。それは、その時代、まったくとんでもないことだったのです。

（続く）

「きよしこの夜」

石原淳子

朝早い時間にもかかわらず、よく見ているテレビ番組があります。

「記憶の中で今もきらめく曲」　「今心に響く曲」　この二つの質問を掲げて、ゲストを招いてトークを展開するという趣向です。

半時間の短い時間ですがこの二つの問いかけのゆえに、語り合いは思いの外大きく膨らんで、個人の人生のさまがありありと映されるようで心惹かれます。

登場するゲストの年代によっての違いは当然なのですが、それにしても挙げられる曲名の多種多様さに今の時代の豊かさを思わずにはおられません。

一人ひとりの、記憶の中のきらめく曲や心に響く音楽は、その人の生きることにほんとうに深く影響力を持っていて、苦しい時、悲しい時、挫折の日々に、そしてまた喜びの時に、傍らにひたと寄り添い、支え、励まし慰め力づけていることがうかがえて、聞いている私も思わず心を合わせてしまいます。

音楽は小説や詩、戯曲などとはまた異なる深みをもって、人を救い得る親密な偉大な力であるのでしょう。　人間の原初の文化であり、コミュニケーションであることが深く肯ける思いです。

そういえばＮＨＫにも同じような音楽の番組があって、ここではゲストが自分の人生の節目節目を共にした曲への想いを語りながら、最後には「人生の終わりに聞きたい曲」を挙げることになっていて、興味深くありました。

その日のゲストが誰であったか、名前などすべて失念しているのですが、人生の終わりに聞きたい曲として「朧月夜」が挙げられ、私はそれを聴きながら泣きたくなるような感動を覚えたことがありました。

菜の花畑に入り日薄れ　見渡す山の端霞深し　春風そよ吹く空を見れば
夕月かかりて匂い淡し　　里わの火影も森の色も・・・・・・・

歌の中にある目に映るものすべて、そして耳に聞こえるものすべてがあの旋律と相俟って心に深く届き、それはなぜか最後の記憶にふさわしい風景と感じられたのでした。

はてさてそれではと思ってみるのです。　私の曲は何でしょうかと、ついつい思いを誘われて巡らしてみるのです。

私たちの年代は多感な年ごろを戦争が阻み、今とは環境が全く違っていて音楽はおろか命をつなぐ食物にも事を欠いていた年代です。　それでも幼い私たちはきっと歌を歌っていたのでしょう。　蓄音機というものがあり、絵模様のある子ども向けのレコード盤をおぼろ気に記憶しています。　焼夷弾にやられる前のことだったでしょうか。

――――― 戦争が終わって・・　復興が進み・・　　長じては・・　今もきらめく曲というなら、トスカのアリア「星は光りぬ」、ピアソラ「リベルタンゴ」でもいいし、フランク永井の歌う「有楽町であいましょう」でも「天使ミサ」でもいいのですが・・・。　でも、やはりこれです。「きよしこの夜」です。

キリストと出会うというその瞬間を境として世界は激しく一変し、初めて見据える露わとなった自身の惨めさの中で、私は自分の身が痛むかに世界中の悲しむ人苦しむ人を知りました。　憐みの愛を浴びて回心し洗礼を授かりました。
その年の暮れのこと、当たり前のように街に流れる「きよしこの夜」を耳にした時の驚愕の慄きを忘れません。
数多聞き歌ってきた「きよしこの夜」は、この時、全くの別のものとして現れたのです。　何があろうとも世界は温かく清らかに慈愛に覆われていることが目に見えるようでした。　この地上への御子の誕生は紛れもない現実でした。

「クリスマスの夜は」という晴佐久神父様の詩があります。
この夜だけは、　わたしは生きていける、何かできるはず、きよらかなこどもに還る、ありがとうもごめんなさいも言える、この星に生まれてよかったと歌う高らかな賛歌です。
私もやわらかな気持ちになって唱和します。

星降る夜、まぶねの御子をヨセフさまマリアさま、博士たちや羊飼いらと一緒に、私はよろこびに満ちてお迎えします。　みことばは人となり、私たちの内に住まわれたのです。

「人生の終わりに聞きたい曲」というよりは、彼の国に帰るとき、この耳に聞こえるのは、「ようこそお帰り　待っていた」という愛する人たちの声。
静かで深く、けれども耳をつんざくような、歓喜の声ではないでしょうか。

いのちの言葉　12月

私は主のはしためです。
お言葉どおりこの身になりますように

（ルカ 1・38）

パレスチナの一人の若い女性、マリアが家にいると、何の前触れもなく神の天使が現れ、驚き戸惑う彼女に神からのメッセージを伝えました。天使は、マリアの返事を待っていました。

マリアは、深い喜びのうちに、神が、自分になさろうとしておられる未知のご計画に、全生涯を捧げました。

「主よ、私はここにおります」というマリアの姿は、神と全人類のために自分を差し出し、仕えようとする決意であり、ここに、神のみ旨に従う人の手本が示されています。

この福音の箇所を黙想したキアラ・ルービックは「神のご計画を果たすために必要なのは、『自分を無にする謙虚さ』と『心の自由』をもった人です。

その意味で、マリア様は、まさに人類を代表する存在です。人類の上にある神のご計画が、マリア様のうちに集約されているからです。神のご計画のために自分の全てを明け渡す彼女の姿にそれが見られます」と語っています。[1]

神の『愛のご計画』は、私たちの上にもあります。それが、実現されるよう、今この時、私たちに語りかける神の「言葉」に耳を傾けてみましょう。

自分は意志が弱く、相応しい人間ではないと決めてしまうなら、それ以上前進できなくなります。

でも、そんな時、私たちも、マリア様に告げた天使の言葉『神に不可能なことはない』[2]を思い出しましょう。自分の力よりも、神の力に信頼しましょう。そうするなら、自らのうちに思いも寄らない活力が湧き出るのを感じ、愛のうちに前進する力を得るでしょう。

あるご夫婦の経験です。

「結婚当初から、私たちは、近くの病院に入院している子供たちのご家族のために、我が家を提供しています。彼らの家族でありたいと心がけながらこれまで100家族以上を家に迎えました。

私たちのもとには、たびたびみ摂理が届けられ、経済的にも助けられました。

先日も、少なからずお金が届いたので、きっと誰かが必要としているお金にちがいないと思い、しまっておきました。案の定そのとおりでした。

まるで、毎日、神様と愛のゲームをしているかのようです。でも、大切なのは、いつも神様に従順であることだと感じています。」

キアラは、マリア様がなさったように、神のみ言葉を受け入れるよう私たちに勧めています。
「人間の言葉とは異なる神のみ言葉を、マリア様のように完全に開かれた姿勢で受け入れましょう。
神のみ言葉の内におられるのは、キリストご自身ですから、あなたの内にキリストご自身をお迎えし、み言葉をすぐ実行に移しましょう。その時、この世は、街角を通り過ぎるキリストを目にすることになるでしょう。なぜなら、あなたの内で生きているキリストが、他の人と変わらぬ服装で、人々と交わりながら、オフィスや学校など、あらゆる場所で働かれることになるからです。」[3]と。
クリスマスを待つこの時期、福音書を読みながら、私たちもマリア様のように、神と『一対一』で過ごす時間を持ちたいものです。み言葉を通して私たちの心に語りかける神の声によって、出会う兄弟姉妹たちの必要性がわかってくるでしょう。
では、日々の生活の場にひとつの人間家族をつくりだすために、今、私たちはどんなイエスになれるでしょうか。
「主よ、私はここにおります」と答えることによって、神は、私たちの周りに平和の種を蒔かれ、私たちの心の中の喜びを大きなものにしてくださるでしょう。

レティツィア・マグリ

いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

★いのちの言葉の集い
関東　12月10日（日）13：30～ 神奈川 カトリック藤沢教会 303号室
（週日に、調布、鶯沼、戸塚、厚木、千葉、浦和、鹿沼でも）
中部　12月10日（日）14：00～ 瀬戸市みずの坂サポートハウスゆうや
長崎　12月10日（日）クリスマス会（場所未定）

★キアラルービック帰天１０周年記念ミサ
とき：２０１８年３月１７日（土）１５時～　場所：四谷　イグナチオ教会主聖堂

連絡先：フォコラーレ東京 03-3330-5619/03-5370-6424　長崎 095-849-3812
E-mail:tokyofocfem@gmail.com
ホームページ：conil157ch1.wix.com/focolare-jp

1 キアラ・ルービック「今がチャンス」チッタノーバ誌 25, 1981, 22 P40 参照
2 ルカ１・３７参照
3 キアラ・ルービック「今がチャンス」チッタノーバ誌 25, 1981, 22 P40-41

跣足カルメル修道会HP（International）

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ http://www.carmelitaniscalzi.com の記事を紹介します。

<< **Communications**（時事通信）>> **2017年11月6日**

フランスのアヴィニョン・アキテーヌ管区、リヨンへ帰還

アヴィニョン・アキテーヌ管区の兄弟たちは、今年の９月１１日より、リヨンに住んでいます。過去において跣足カルメル修道会は、１６１９年から１７９２年までリヨンに修道院を持っていました。１８５９年にアルスの主任司祭、ご聖体のオーガスティン・マリア（ヘルマン・コーエン）神父の助言により、１９０１年の修道会追放まで、リヨンの修道院を取り戻しました。その後、１９４６年からは若いカルメル会士たちが、養成の家が１９６２年に閉鎖されるまで、そこに住んでいました。

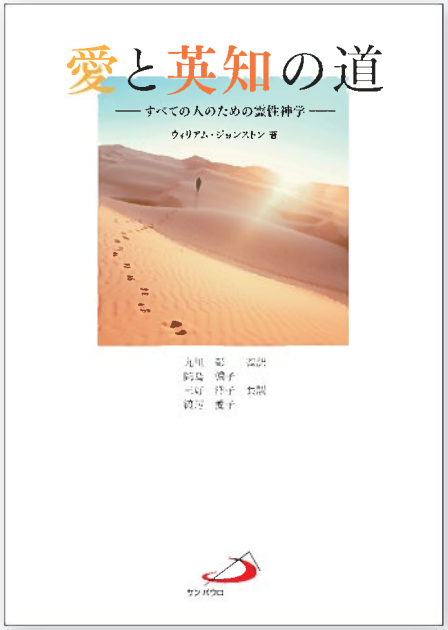
履足カルメル修道会の共同体も、１２９１年から１７９２年までリヨンに住んでいました。当時の大きな修道院の柱の一つは今も保存されおり、毎日多くの歩行者がその横を通っています。（写真参照）

アヴィニオン管区は、フィリプ・バーバラン枢機卿からの要請に応えて、この度その地にもどる決定をしました。当分彼らの使徒職は、市の中心部にある聖ボナヴェントウラ大聖堂での活動が中心となります。共同体は３名の司祭で、修道院長が大聖堂の担当司祭に選ばれ、小教区のすべての会議に参加しています。司祭たちは、それぞれ３つのアパートに仮住まいしておりますが、修道生活に適した住居が早く手に入るよう望んでいます。それまでは彼らはそこに滞在し、私たちのために祈りを捧げると同時に、彼らのためにも祈るよう願っております。

リヨンの履足カルメル会の昔の修道院の大きな柱のそばに、管区長と一緒にリヨン共同体を創立した３名の司祭たちが立っている写真をご覧ください。

10月18日(水)発売予定

サンパウロ 新刊案内



愛と英知の道

――すべての人のための霊性神学――

ウィリアム・ジョンストン 著

九里　彰　監訳
岡島　禮子　三好　洋子　渡辺　愛子　共訳

西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21 世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生活の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」(『教会憲章』39)。

本書は、十字架の聖ヨハネが 16 世紀に向けてなしたことを、21 世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渇望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにしておられる方々にも、本書を勧めています。

第一部　キリスト教の伝統
第1章　背　景(1)
第2章　背　景(2)
第3章　理性 対 神秘主義
第4章　神秘主義と愛
第5章　東方のキリスト教
第6章　愛を通して生まれる英知

第二部　対　話
第7章　科学と神秘神学
第8章　修徳主義とアジア
第9章　神秘主義と根源的なエネルギー
第10章　英知と〈空〉

第三部　現代の神秘的な旅
第11章　信仰の旅
第12章　浄化の道
第13章　暗　夜
第14章　〈愛のうちにある〉
第15章　花嫁と花婿
第16章　一　致
第17章　英　知
第18章　活　動
第19章　社会活動の神秘主義

ウィリアム・ジョンストン　William Johnston S.J. (1925–2010)
北アイルランドのベルファストに生まれる。
イエズス会に入会し、26 歳で来日。
32 歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教を上智大学などで講じるかたわら、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。ペドロ・アルペ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85 歳で帰天。

• A5判 • 600頁 • 並製 • 定価 3,400円+税 • ISBN978-4-8056-0064-1　C0016

カルメル誌　新刊案内

2017年　秋号　No.366

《今年の特集　三位一体のエリザベトの霊性》

三位一体のエリザベトにおける「人間の召命」(3)
九里彰

三位一体のエリザベトに影響を与えた霊性家(3)
―ルイスブルック
松田浩一

エディット・シュタインと三位一体のエリザベト
須沢かおり

風に吹かれて(13)―虚無―
原　造

フランス便り(3)夕日を浴びる葡萄畑
―“聖なる”ものになるように　あなたも呼ばれています
伊従信子

遠藤周作の文学とテレーズの霊性(2)
―『最後の殉教者』と『カルメル会修道女の対話』
片山はるひ

道元の霊性に学ぶ(3)―心の無限の可能性
田畑邦治

今はむかしのテレビ事情　森　みさ

神がいつくしまれた道(15)　奥村一朗

特集号「三位一体の聖エリザベトの祈り」
―現代人へのメッセージ―

エリザベトと共に生きる―永遠の光のもとで
片山はるひ

続・歴史の中の三位一体のエリザベト
大瀬高司

三位一体のエリザベトにおける苦しみの神秘
九里彰

三位一体のエリザベトによる
「聖書に基づくキリスト中心の生活」
ポーリン・フェルナンデス

父と子と聖霊の唯一の神を信じる
―三位一体のエリザベトと共に
松田浩一

ご案内　　1 冊 460 円　A5 サイズ　50～70 ページ

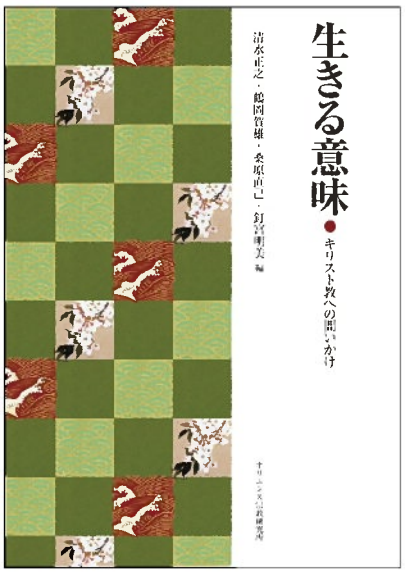
サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会
信徒ホール本コーナー・各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、600 円【460 円（+送料 140 円）】程度の献金を
下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費（年 5 冊：春夏秋冬
+特集号　計　3,000 円）を下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457　跣足カルメル修道会

お問い合わせは事務担当 竹田まで TEL(03)5706-8356



最新刊のご案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美　編

A５判・312 頁・2500 円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など――危機にさらされている人間の救済の道を探る。

――――目次――――

序　「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
1　東日本大震災と宗教／中下大樹
2　宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
3　東日本大震災に思うこと／佐藤純一
4　脱原発の倫理／久保文彦
5　何のために働くのか／神谷秀樹
6　グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
7　私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
8　関係の倫理学／清水正之
9　宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
10　V・フランクルのロゴテラピー／桑原直己
11　「神の子となる」――カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
12　「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
13　エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所　TEL:03-3322-7601　FAX:03-3325-5322
ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

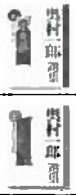
奥村一郎選集

追悼　奥村一郎師

その時と場所で与えられた役割を
誠実に果たし続けた師が遺す珠玉の名編

四六判・上製・平均 240 頁・各巻とも 本体 2000 円+税

日本の文化の中で福音が豊かに開花することを求めて祈り、思索した奥村一郎師。本選集は半世紀にわたるその膨大な著作、講演等の記録から特に重要と思われるものを選び、テーマ別に集成したものです。豊かな霊性をたたえた祈りの人であり、東西霊性交流など宗教対話のダイナミックな推進者。静謐さと情熱を併せ持つ著者が紡ぎ出してきた言葉の数々は、神と人に真摯に向かう姿を私たちに示してくれます。ときにユーモアを交えたその視座は、日本における福音宣教を願うすべての人々にとっての道標となることでしょう。



第1巻　慈悲と隣人愛　解説・西村惠信
日本文化に影響を与える仏教の光を当てつつ聖書を読み、キリスト教の本質理解に近づく。
カトリックから禅へ／小事と瑣事／禅とキリスト教における霊的修行

第2巻　多文化に生きる宗教　解説・橋本裕明
宗教対話と霊性交流から得られた柔軟な視点から、日本での新たな宣教の可能性を示す。
大いなる賭け――宗教対話／日本人とキリスト教――遠藤文学の魂

第3巻　日本の神学を求めて　解説・小野寺 功
日本の地に根ざす神学、その開花の可能性を福音の原点である相互愛から問いかける。
日本の神学――根源への問い／相互愛／「信ずる」と「愛する」／新しい掟

第4巻　日本語とキリスト教　解説・阿部仲麻呂
関係性を重視する表現が中心となる日本語を手がかりに、ことばと信仰の関係を再考する。
日本人の心とその精神構造／「ことば」から「みことば」へ／聖書と翻訳

第5巻　現代人と宗教　解説・鵜岡賀雄
宗教不在とされる現代、人々が直面する課題にキリスト教はどう向き合っていけるのか。
現代人とキリスト教／偶像の喪失／退屈／「新しい人」としての真人

第6巻　永遠のいのち　解説・八木誠一
生と死、罪と恵み、正義と愛――人間の栄光と悲惨を見極め、永遠のいのちへの道を探る。
嬰児復帰／人間の栄光と悲惨／神は死せり／十字架の秘義／人間と世界と神

第7巻　カルメルの霊性　解説・高園泰子
愛ゆえにすべてを、命さえも失ったイエスを追い求めるカルメル。その霊性の根源に迫る。
アビラのテレジア／十字架のヨハネ／小さきテレーズと東洋的霊性

第8巻　神に向かう〈祈り〉　解説・高橋重幸
東西における祈りの方法論を丹念にたどりつつ、キリスト教の祈りの本質を明らかにする。
考える祈り、思う祈り、愛する祈り／現代における祈りの指導者／祈りとは何か？

第9巻　奉献の道　解説・宮本久雄
すべての人にみずからを与えつくす奉献生活を通して、人間そのものの神秘を見つめる。
清らかな矛盾／世を変えるパン種として／清貧の誓願／現代に生きる修道者の霊性

カルメル会会員、在俗会メンバーの方々には特別割引があります。直接お問い合わせ下さい。

オリエンス宗教研究所　〒156-0043 世田谷区松原 2-28-5
ＴＥＬ：03-3322-7601　ＦＡＸ：03-3325-5322
ホームページ：http://www.oriens.or.jp/

カルメル会の企画案内

カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19：10）

上野毛霊性センター(東京)　2017 年 12 月～2018 年 3 月

黙想企画　＊＊上野毛聖テレジア修道院（黙想）＊＊

１．祭日のミサに参加するために

【クリスマス】　チェックイン午後３時以降可、チェックアウト午前１０時

２０１７年１２月２４日(日)～２５日(月)朝食《講話なし、夕食なし》

２．日帰り一日黙想会　　１３時３０分～１６時　　福田正範神父

私たちの毎日の生活が神のみことばの光によって照らされますように・・・。

２０１７年

１２/７(木)　１２/２２(金)

２０１８年

１/１１(木)　１/２６(金)　２/８(木)　２/２３(金)　３/８(木)　３/２３（金）

（以降は、決まりましたらご案内します。）

＊各日、午前から個人静修も可能です。(昼食付)

＊申し込みは、３か月前より受付致します。

３．奉献生活者のための黙想会

２０１７年

１２月２７日（水）１７時～２０１８年１月５日（金）朝　　福田正範神父

４．青年黙想会(男女)　35 歳位まで

２０１８年

２月１０日（土）１６時～１２日（月）１６時　　カルメル会士

交通案内

東急大井町線　上野毛駅下車　徒歩　約８分　（注：上野毛には急行は停車しません）

各線から、東急大井町線への乗換は次の通りです。

東急：東横線　自由が丘、田園都市線　二子玉川。

ＪＲ：京浜東北線　大井町、ＪＲ南武線　武蔵溝ノ口。

東急バス　上野毛駅前下車　徒歩　約８分

①黒 02　二子玉川～目黒駅前。（経由：目黒通り。途中、碑文谷、都立大学。）

②園 01　千歳船橋～田園調布。（経由：環状８号。途中、瀬田、砧公園など。）

田園調布方面からは、１つ手前「明神坂上」のバス停も降車可能です。

＊ 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、カルメル会霊性センターニュース、ホームページ（http://www.carmel-monastery.jp）なども合わせてご覧下さい。

＊ こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です（グループ、個人いずれも）。お気軽にお問い合わせください。

＊ 間違いを避けるため、お問い合わせはFAX・はがき・Ｅメール等、文書でお送り頂けますと幸いです。

〒158-0093　東京都世田谷区上野毛 2-14-25

Tel:03-5706-7355　　Fax:03-3704-1789

Ｅメール：mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ：http://www.carmel-monastery.jp

＊＊＊＊＊＊　日帰り黙想会　＊＊＊＊＊＊

☆☆☆聖人たちをささえた神のことば☆☆☆

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことだ”とヒエロニモは言いました。
第二ヴァチカン公会議においても次のように語られています。
「すべてのキリスト者は、しばしば聖書を読んでキリストを知るすばらしさを学ぶように強く特別に奨励する」（啓示憲章６章２５）信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように・・・。

場所：カルメル会聖テレジア修道院（黙想の家）

指導：福田正範神父

＊午前中を個人黙想として静修をご希望の方は午前１０時～ご利用が可能です。
昼食の準備のためあらかじめご連絡をお願い致します。
費用：午後からのご参加・・・・￥２０００、午前からのご参加・・・・￥３５００

日時：２０１７年　９月７日（木）　午後１時 30 分～4 時

＊９月２１日より変更

１０月６日（金）　〃

＊１０月２７日より変更

１１月１０日（金）　〃

１１月３０日　（木）　〃

１２月　７日　（木）　〃

お問合せ・お申込み：

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）
〒１５８－００９３　東京都世田谷区上野毛　２－１４－２５
ＴＥＬ．０３－５７０６－７３５５
ＦＡＸ．０３－３７０４－１７８９
Ｅメール：mokusou@carmel-monastery.jp

金沢黙想案内

毎月第一日曜日　三馬教会　聖堂

14：30～ 講話

15：30～ ミサ（ラテン語聖歌）

土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日（第二の場合あり）三馬教会　聖堂

14：00～ 講話

14：30～ ベネディクション・聖体祭儀

15：30～ サルヴェ　レジナ　終了

沈黙の祈りのうちに神様と語らい、またご聖体のイエス様と共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう

カルメル霊性センター

〒921-8162

金沢市三馬 3 丁目 324 番地

カルメル会　三馬修道院

三上　和久神父まで

Tel　076-244-7788

宇治カルメル会　黙想会案内
2017 年 12 月～2018 年 3 月

【一般のための黙想】
・1 泊 2 日（午後 5 時～午後 4 時）
2018 年
1 月 13 日（土）～14 日（日）　日常生活を次の世代のため　中川博道神父

【聖書深読黙想会】
（午前 10 時～午後 4 時）
2018 年
2 月 3 日（土）　中川博道神父

【水曜の黙想】
（午前 10 時～午後 4 時）
12 月 13 日（水）三位一体の聖エリザベトと三位一体の神　九里彰神父
2018 年
1 月 24 日（水）　イエス・キリストと聖パウロ　九里彰神父
2 月 14 日（水）　四旬節の課題　中川博道神父
3 月 14 日（水）　自分の十字架を背負って　中川博道神父

【特別黙想会―三位一体の聖エリザベトの祈り―】
・1 泊 2 日（午後 4 時半～午後 4 時）
12 月 9 日（土）～10 日（日）　三位一体の聖エリザベトの苦しみの神秘　九里彰神父

【青年の集い in Uji】高校生以上 35 歳まで
（午前 10 時～午後 4 時半）
変更→ 12 月 9 日（土）　『人間の問題性とは？』　中川博道神父

【待降節の黙想】
（午後 5 時～午後 4 時）
12 月 2 日（土）～3 日（日）　受肉の神秘　九里彰神父

【奉献生活者の黙想】
（午後 5 時～午前 9 時）
12 月 27 日（水）～1 月 5 日（金）　九里彰神父

【四旬節の黙想会】

2018 年

3 月 3 日(土)～4 日(日)　　過越しを生き抜くために　中川博道神父

祭日のミサに参加するために

【クリスマス】チェックイン午後４時以降可、チェックアウト午前１１：３０

12 月 24 日(日) ～12 月 25 日（月）　{講話なし、各食事つき}

－その他皆さまが企画なさったグループ黙想会,個人黙想も歓迎いたします－

☆お申し込みは、電話でも受付ておりますが、できるだけ FAX、はがき、E メールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話は、なるべく午前９時～午後５時の間にお願い致します。受付が休みの場合は、その場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合せ下さる様にお願いいたします。

〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39－12

宇治カルメル会　聖テレジア修道院　（黙想）

Tel　0774-32-7016　Fax　0774-32-7457

E-Mail:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

三位一体の聖エリザベトの祈り

― 現代人へのメッセージ ―

≪特別黙想会≫

12 月 9 日(土)午後 4 時半受付～10 日(日)午後 4 時

講　師　九里彰神父

「三位一体の聖エリザベトの苦しみの神秘」

場　所　宇治 聖テレジア修道院（黙想の家）

申込み　〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39－12

宇治カルメル会　聖テレジア修道院（黙想）

Tel：0774-32-7016

Fax：0774-32-7457

E-Mail：teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

青年の集い in Uji

……立ち止まって、聴いてみる……

『人間の問題性とは？』

・・・・ 神と人と自然界との断絶に苦しむわたしたち・・・・

2017 年 12 月 9 日　10:00~16：30

対象：高校生以上　35 歳までの男女

参加費：500 円

申し込み・連絡先：Tel 0774-32-7016 Fax 0774-32-7457

E-Mail ： teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39 - 12

スタッフ：Fr.中川博道、Br.原 造（カルメル会）

Sr.ローザ、 Sr.マイラ （カルメル宣教修道女会）

宇治カルメル会　**幼きイエスの聖テレジア修道院（黙想）**

宇治聖テレジア修道院（黙想）の「建築基金」への献金のお願い

主の平和がいつも皆様の上にありますように

宇治の黙想の家は、1962年に建てられ、すでに54年の歳月が経っております。老朽化が進み、いろいろな点で支障をきたしております。そのため、新しく建て直す必要性が出てまいりました。会内で検討を続けてまいりましたが、財源に余裕がなく、新築計画が頓挫しております。

黙想の家は、キリスト者の霊的生活を培うために無くてはならないものです。またカルメル修道会は、霊的指導を会の固有使徒職としております。この意味でも、また日本の教会のためにも、静かに黙想する場所を、信徒の皆様のために確保してゆきたいと願っております。

建築資金の確保のため、少額でも結構ですので、皆様の御協力をいただければ幸いです。お志のある方は、以下の会本部の銀行口座か郵便貯金口座にお振込みください。**その際は、誠にお手数ですが、お名前とご住所、振込み日と金額を、郵便かファックスで本部までお知らせくださるようお願い申し上げます。**よろしくお願いいたします。

三井住友銀行
上前津（カミマエヅ）支店
普通口座：７２０５８０５
名義：男子跣足カルメル修道会

郵貯銀行
記号：10040
口座番号：５６８４５３９１
名義：男子跣足カルメル修道会

男子洗足カルメル修道会本部
〒456-0062　愛知県名古屋市熱田区大宝 4-5-17
Tel：052-571-1558　Fax:　052-681-6445

諸所の企画案内

心のいほり　内観黙想センター
真命山　霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
リーゼンフーバー神父キリスト教講座
慈しみ深き会

※注）
諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、 詳細については各問い合わせ先に、 ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

先の予定表と若干変わっていますので、 開始の曜日や時間などにご注意ください。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み、関西地区の会場は6万円、他地区は6万5千円です。

◎Eメール・ファックス・手紙でセンターに問い合わせてください。 電話では取り次いでおりません。

申し込みは、会場予約準備がありますので、10日前迄に完了をお願いします。

◎〒572－0001 大阪府寝屋川市成田東町3－27「心のいほり・内観瞑想センター」 藤原神父
FAX 072・802・5026 Eメール fujinao1944@nifty.com
http://www.com-unity.co.jp/naikan (ホームページ・アドレス)

◎予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

(★)印の会場では、藤原神父以外の司祭も面接同行する可能性があります。

6泊7日 開始日午後2時より 終了日午後2時まで

2017年予定

T1 03/12（日）-03/18（土）兵庫西宮・トラピスチヌ
K2 03/27（日）-04/01（土）東京小金井・聖霊会
N1 05/07（日）-05/13（土）滋賀唐崎・ノートルダム
K2 06/11（日）-06/17（土）東京小金井・聖霊会
T2 07/02（日）-07/08（土）兵庫西宮・トラピスチヌ
T3 09/03（日）-09/09（土）兵庫西宮・トラピスチヌ
N2 10/10（火）-10/16（月）滋賀唐崎・ノートルダム
K3 11/05（日）-11/11（土）東京小金井・聖霊会
T4 12/03（日）-12/09（土）兵庫西宮・トラピスチヌ

2018年予定

K1 05/06（日）-05/12（土）滋賀唐崎・ノートルダム
K2 10/07（日）-10/13（土）滋賀唐崎・ノートルダム

真命山

祈りの集い

年間のテーマ

山上の教え

2017

年度行事のご案内

祈りの集い(10 時～15:00 時)

1 月12 日　幸せの道･イエスの山上の垂訓　(マタイ5･7)

2 月 9 日　心の貧しい人々は、幸せである、天の国はその人たちのものである。　(マタイ5･3)

3 月 9 日　柔和な人々は、幸せである、その人たちは地を受け継ぐ。　(マタイ5･4)

4 月 20 日　悲しむ人々は、幸せである、その人たちは慰められる。　(マタイ5･5)

5 月 11 日　義に飢え渇く人々は、幸せである、その人たちは満たされる。　(マタイ5･6)

6 月 8 日憐れみ深い人々は、幸せである、その人たちは憐れみを受ける。(マタイ5･7)

7 月 13 日心の清い人々は、幸せである、その人たちは神を見る。(マタイ5･8)

8 月 休み

9 月14 日平和を実現する人々は、幸せである。その人たちは神の子と呼ばれる。(マタイ5･9)

10 月 12 日義のために迫害される人々は、幸せである、天の国はその人たちのものである。(マタイ5･10)

11 月 9 日幸いなのは、神の言葉を聞き、それを守る人たちである。(ルカ11･27・28)

12 月 14 日見ないのに信ずる者は、幸いである。(ヨハネ20･29)

指導者　ロッコ　神父

※　個人またはグループでの黙想会

研修会も歓迎いたします(要予約)

申込先

真命山　諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜷浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com

講話と祈りの集い

１２月９日(土)
２０１８年　１月２０日（土）

午後２時～午後５時30分

担当 伊従 信子

講話・祈り・質問・分かち合い

場　所：ノートルダム・ド・ヴィ（東京・上石神井）

参加費：200円

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

お申し込み・問い合わせ
ノートルダム ・ ド ・ ヴィ
〒177-0044　練馬区上石神井４－３２－３５
TEL(03)3594-2247　FAX(03)3594-2254
e-mail　notredamedevie.japan@gmail.com

サダナ瞑想　～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。　http://sadhana.jesuits.or.jp/

★申込み受付‥開始日の 8 日前で締切ります

コース	日　時	指導者	開催場所	申込み
入門 C	2018 年 1/14(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	来間(くるま)裕美子※ ℡090-5325-2518 045-577-0740
サダナ I	2/9(金) 17:30- 12(月)16:00	Fr植栗	汚れなきマリア修道会 町田黙想の家	同上
フォローアップ	2/25(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院1F (四ツ谷)	同上
サダナ II	3/17(土 4)17:30- 21(木)16:00	Fr植栗	汚れなきマリア修道会 町田黙想の家	同上

※不在の場合は、渡辺由子　　Tel &Fax ： 042-325-7554

◆サダナ I （入門A. B. C）

体の営みと想像とを生かして祈りを深め、「神との出会い」と「心の解放」をめざす。

◆サダナ II

I をいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合される。

◆フォローアップ・・・サダナ I を終えた方。

◆入門C・・入門Aまたは入門Bを終えた方。

ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院

◎ 所 在 地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3－1
Tel： 077-579-7580
Fax： 077-579-3804
E-ﾒｰﾙ： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交 通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日 程：

A. 8 日間の個人指導による黙想
初日は、18 時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。

① 2018 年 5 月 6 日（日）～ 5 月 14 日（月）
② 8 月 14 日（火）～ 8 月 22 日（水）
③ 10 月 7 日（日）～10 月 15 日（月）
④ 12 月 27 日（木）～2019 年 1 月 4 日（金）

B. 祈りの体験：週末 3 日間 （金曜日の夕食～日曜日の昼食）
【神との親しさの中で日常を生きるために】

① 2018 年 2 月 2 日（金）～ 2 月 4 日（日）
② 2 月 23 日（金）～ 2 月 25 日（日）
③ 3 月 16 日（金）～ 3 月 18 日（日）
④ 6 月 22 日（金）～ 6 月 24 日（日）
⑤ 7 月 13 日（金）～ 7 月 15 日（日）
⑥ 9 月 21 日（金）～ 9 月 23 日（日）
⑦ 11 月 16 日（金）～11 月 18 日（日）

C. 講話 黙想（奉献生活者のため）

2018 年 5 月 30 日（水）～ 6 月 7 日（水） 雨宮 慧 師（東京教区）

◎ 対 象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、 ﾉｰﾄﾙﾀﾞﾑ教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 氏名(ﾌﾘｶﾞﾅ) 2) 〒住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて郵送、または、Fax で「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10 日前までに申し込んでください。 先着順 11 名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やｸﾞﾙｰﾌﾟ研修会のために修道院をご利用なさりたい方はご相談ください。 （但し、上記の日程と 8 月 1 日～8 月 9 日、9 月 1 日～9 月 7 日を除きます。）

希望への道

2017年度　女子青年黙想会

	日時	テーマ	講師
1	4月22日(土)～23日(日)	なぜそのようなことがあり得ましょうか。	山内十束師(ご受難会)
2	6月10日(土)～11日(日)	おことばのとおり、この身になりますように。	山内十束師(ご受難会)
3	11月11日(土)～12日(日)	神は卑しいはしためを顧みられた。	山内十束師(ご受難会)
4	2月17日(土)～18日(日)	心に納めて、思い巡らす。	山内十束師(ご受難会)

場所：　ノートルダム教育修道女会　唐崎修道院
〒520-0106　滋賀県大津市唐崎　1-3-1
対象：　独身女性青年信徒
費用：　2,500円（一日参加も可）
申込み・問合せ：　*ノートルダム教育修道女会　唐崎修道院　シスター桂川*

Tel ：　077-579-2884　Fax ：　077-579-3804
email: karainorind92@mbe.nifty.com

希望への道

―心に納めて、思い巡らす―

2017年度　第４回　女子青年黙想会

日時：　2月17日（土）15：00 ～
18日（日）15：30 まで
場所：　ノートルダム唐崎修道院　（JR京都駅から30分）
指導：　山内　十束 師　（ご受難会）
対象：　独身青年女性信徒
費用：　2,500円
締切：　2018年2月11日（日）まで

〈申込み・問合せ〉
〒520-0106　滋賀県大津市唐崎　1-3-1
ノートルダム教育修道女会　Sr. 桂川
Tel ：　077-579-2884　Fax ：　077-579-3804
email: karainorind92@mbe.nifty.com

リーゼンフーバー神父講座・集いの案内　２０１７年～２０１８年

●キリスト教入門講座（右頁参照）

金曜日　18時45分～20時30分

聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール。どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。

●キリスト教理解講座（右頁参照）

毎月第1・第3・第5火曜日

18時45分～20時30分

聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール

キリスト教の基礎知識を持っている方。信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探求します。2年間のコース。

●土曜アカデミー

下記（予定）の土曜日：

9時30分～12時00分、岐部ホール4階404、各時代の文章を読んで、思想史一般とキリスト教哲学・神学の相互関係を考察します。

キリスト教思想史に関心を持っている方。プログラムの詳細は、別途配布。

2017年度冬学期: 理性と神認識―中世―

12/02 ボナヴェントゥラ、フランチェスコ
　　：神への道程(13世紀)
12/09　トマス・アクィナス
　　：存在論と神認識(13世紀)
12/16 フライベルクのディートリヒ
　　：幸福の直観(14世紀

●神学読書会

第2・第4木曜日：18時-20時

上智大学内S.J.ハウス、第5応接室。

『リーゼンフーバー小著作集』から霊性と神学に関する文章を読んで、話し合います。

4月27日から。但し祝日、8月全体は休み。

・ミサ：上記読書会後20時－20時45分　クルトゥルハイム1F右聖テレジア小聖堂どなたでも。

●黙想

・「会社帰りの黙想」

毎月第2・第4火曜日 18時45分－20時

聖イグナチオ教会マリア中聖堂

4月25日から。但し祝日、8月全体は休み。

・「黙想会」

2018年 3月17日(土)－18日(日)（上石神井）

1泊2日。申込の締切りは、初日の10日前。

●祈りの集い

・下記の土曜日 13時30分－16時 上智大学内S.J.ハウス、第5応接室。講話、黙想、ミサがあります。

2018年

1月20日、2月17日

・ロザリオの祈り

（上記同日のミサに続いて)16時10分　－16時50分

●坐禅会

・第1、第3月曜日：18時00分－20時00分

上智大学内クルトゥルハイム1階左の部屋。2回坐り、間に講話。

(5月15日から。但し祝日、8月全体、12月25日は休み)

●アガペ会

下記の日に説明会(13時30分)と集い・ミサ(14時－18時)。上智大学内S.J.ハウス、第5応接室。

2018年　1月27日(土)

●クリスマスのミサ

12月23日(土)14時～16時

上智大学内クルトゥルハイム聖堂(定員80名)

●クリスマスの黙想

12月25日(月)18時50分～20時10分

聖イグナチオ教会マリア中聖堂

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス　http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

リーゼンフーバー神父キリスト教入門・理解講座

キリスト教入門講座

日時　毎週金曜日
　　18時45分～20時30分

2017年
12/01　自己実現と神の意志― 生き方の規範
12/08　人間の弱さ― 罪とは何か
12/15　恵みとゆるし― 神の憐れみを受ける
12/22　愛の心― キリスト教の本質

12/23　◆クリスマスのミサ(14時、上智大学内
　　クルトゥルハイム2階聖堂、定員80人)
12/25　●クリスマスの黙想
　　(18時50分-20時10分、
　　聖イグナチオ教会マリア中聖堂)

2018年
1/05　隣人愛― 他人の内にイエスに出会う
1/12　希望を持つ勇気― 未来に向かって歩む
1/19　霊の動き― 福音による生き方
1/26　秘跡と教会生活― 毎日を支える信仰
2/02　神の言葉
　　―神との日常的な対話と黙想の仕方
2/09　結婚と独身― 愛の道
2/16　信徒・司祭・修道者― 誰もが召されている
2/23　仕事という人間の課題
　　― 社会と教会に寄与して働く
3/02　人間の苦悩― 悪とは何のためか
3/09　死― その受け入れと克服
3/16　人生の完成― 神の内に生きる
3/17－18　●黙想会(上石神井)
3/23　聖母マリア― 信じる者の原型

3/30　○休み
4/01　◆御復活祭のミサ(14時、上智大学内
　　クルトゥルハイム2階聖堂、定員80人)

キリスト教理解講座

日時　第1・3・5火曜日
　　18時45分～20時30分

［根本的態度］
12/05　対人関係と友愛――恵みである他者
12/19　身体と生命――性と倫理

2018年
［日常生活］
01/16　家庭と独身生活
　　――与えられた招きの発見
02/06　仕事と祝い
　　――能力の活性化と人生の実り
02/20　困難と苦しみ
　　――謙遜な自己奉献と神への信頼
03/06　教会生活とミサ――「キリストの体」の神秘
03/20　秘跡の恵み
　　―たえざる刷新と神のいのちの深まり

《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会（四ツ谷駅前）
信徒会館3階
アルペホール　TEL　03・3263・4584
クラウス・リーゼンフーバー神父

〒102－8571　千代田区紀尾井町7－1
上智大学SJハウス
電話　03－3238－5124（直通）
　　－5111（伝言）
Fax　03－3238－5056

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス　http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/

祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて
－観想の祈りへの道－

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室　１４：００～１６：００
12月のみマリア聖堂（ミサあり）

【2016年予定】

~~12月15日(木)『霊の賛歌』第５回目：第３の歌~~　終了

【2017年予定】

~~１月19日(木)『霊の賛歌』第６回目：第４～５の歌~~　終了
~~３月16日(木)『霊の賛歌』第７回目：第６の歌~~　終了
~~５月25日(木)『霊の賛歌』第８回目：第７の歌~~　終了
~~７月20日(木)『霊の賛歌』第９回目：第８と第９の歌~~　終了
~~９月21日(木)『霊の賛歌』第10回目：第10の歌~~　終了
~~11月16日(木)『霊の賛歌』第11回目：第11の歌~~　終了
12月21日(木)『霊の賛歌』第12回目：第12の歌

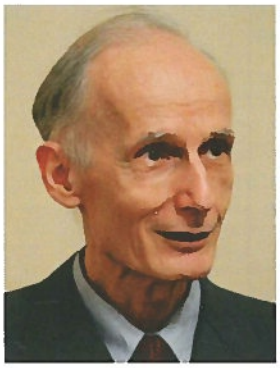
＊参加費無料（献金歓迎）
＊問い合わせ先：042－473－6287　篠原

九里彰神父（カルメル会司祭）

<<特別黙想会>>

日時：2017年12月16日(土) 4時半受付～17日(日) 午後4時
場所：上野毛聖テレジア修道院（黙想）
テーマ：「三位一体の聖エリザベトの苦しみの神秘」
指導司祭：九里彰神父
申し込み：上野毛聖テレジア修道院（黙想）
〒158-0093　東京都世田谷区上野毛2-14-25
Tel: 03-5706-7355 / Fax: 03-3704-1789
E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp

※各黙想会内容・日程等、 詳細については各問い合わせ先に、 ご確認ください。



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

（全五巻）四六版・４３４頁～６２８頁

各巻　本体 3、８００～5、０００ 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構架して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は４０余年の著述活動による１５０余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN 定価（本体＋税）
第1巻	**Ⅰ　超越体験　―宗教論** 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全 11 作、434p	9784862852151 3,800 円＋税
第2巻	**Ⅱ　真理と神秘　―聖書の黙想** 日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全 35 作、544p	978-4862852175 4,600 円＋税
第3巻	**Ⅲ　信仰と幸い　―キリスト教の本質** 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全 38 作、628p	9784862852205 5,000 円＋税
第4巻	**Ⅳ　思惟の歴史　―哲学・神学的小論** 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐっての根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに拡げて信仰生活の深みに掘下げる。全 41 作、448p	9784862852212 4,000 円＋税
第5巻	**Ⅴ　自己の解明　―根源への問いと坐禅による実践** 信仰との関わりの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です！」収録。全 35 作、470p	9784862852229 4,200 円＋税

●リーゼンフーバー，クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938 年ドイツ生まれ。1958 年イエズス会入会。1967 年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969 年上智大学文学部哲学科専任講師。1971 年東京で司祭叙階。1974 年上智大学中世思想研究所所長（-2004）。1981 年上智大学教授。1989 年上智大学神学博士。国公私立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009 年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知　泉　書　館　〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166
http://www.chisen.co.jp

『霊性センターニュース』
＊郵送お申込みのご案内＊

ご郵送は、基本的に１月から 12 月までとなります。
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から 12 月までとなります。
例：６月申込の場合は、７月号~12 月号（但し８月号は休刊）となり、
５冊となります。　ご希望の月数×250 円程度の献金を下記口座（新設）へお振込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座：　００９１０－６－３３３１８
加入者名：　カルメル霊性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、郵便番号・住所、電話、Fax 等ご明記ください。
何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002　京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院　「霊性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457
≪変わりました≫ reisei@carmel-monastery.jp

「霊性センターへの献金」のお願い（上とは別）

「霊性センターニュース」は、７月より、宇治霊性センター事務局で編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。
献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座：　００９１０－６－３３３１８
加入者名：　カルメル霊性センターニュース事務局
なお通信欄へは「献金」とご記入ください。

編集後記

先月 11 月号の「みことばのひびき」の「年間第 32 主日」の記事が欠落していたことに気づかれた方も多いことと思われます。抗議のお便りもいただきました。

これは、執筆者であった私たちの兄弟、新井延和神父の突然死によるものです(10 月 15 日夜、享年 65 歳)。穴を埋める時間的余裕がなくなり、やむを得ず、没といたしました。読者の皆様には何の説明もなく、当該記事が欠落していたため、いろいろと憶測されたようで、こちらの不手際を、この紙面をもってお詫びさせていただきます。誠に申し訳ありませんでした。

彼は、私が管区長時代、管区長秘書としてきわめてよく働いてくれました。几帳面で事務的な処理能力は抜群でした。何か頼むと、嫌な顔ひとつせず、即座にすばやく動いてくれました。外国語、特に英語が堪能であったため、ローマ本部や外国との関係で私は大いに助けられました。総長館からの文書なども、即座に訳してくれ、会員やカルメルファミリーに配布することができました。修道会としては、本当に大きな痛手です。

今は天国で、ご両親や夭折されたお姉さんと共に、永遠の憩いに入っていることと信じます。彼の永遠の安息のために、また残されたご親族のために、お祈りくださるよう、お願いいたします。合掌　　(P. 九里)

男子跣足カルメル修道会のホームページ

http://www.carmel-monastery.jp

Google：「カルメル会」で検索できます

男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています

『霊性センターニュース』お持ち帰りの方へ
一冊 100 円程度の献金をお願致します

製本／発送のご協力お願い

「霊性センターニュース」の製本/発送を、7 月号より宇治修道院で行うことになりました。発送作業は梱包・宛名ラベル貼りと確認チェック等です。
皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加も大歓迎です。

2018 年度　1 月号の製本/発送日　　１２月２２日(金)　午前 9 時半頃から
宇治修道院信徒会館

※ご協力いただける方は、製本/発送日をご確認の上、お越しください。

霊性センター事務局　☏0774-32-7456